

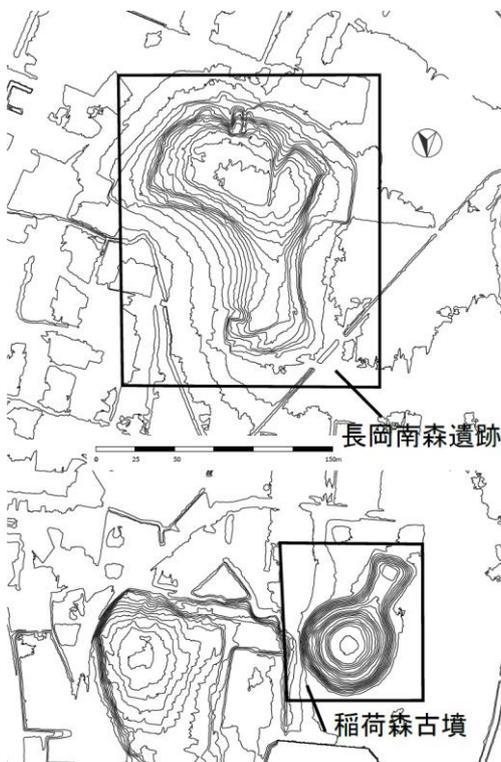
2回目に引き続き「長岡南森遺跡（ながおかみなみもりいせき）」の最新情報を紹介します。

◎遺跡（※1）の概要

「長岡南森遺跡」は、南陽市長岡地区「国指定史跡 稲荷森古墳」から南に約150mの丘陵地にあります。

形が前方後円墳（※2）に似ていることや稲荷森古墳に近いこともあり、平成5年度から継続的に踏査（※3）を続けていました。近年、周辺の土地開発が進み、遺跡にも影響が及ぶ恐れがあることから、平成28年度に遺跡の現状把握のため測量調査を実施しました。古墳の可能性を含めて遺跡の性格の確認するため、平成30年度から確認調査を実施し、2年目となる平成31（令和元）年度には、考古学関係有識者による「長岡南森遺跡確認調査委員会」を設置しその指導の下、調査を行いました。令和2年度の調査も令和2年6月8日から8月6日まで行いました。

測量調査による測量図（図の上の丘陵地が長岡南森遺跡、図の右下が国指定史跡稲荷森古墳）



長岡南森遺跡全景（西から）

◎第3次確認調査（令和2年度）の成果（最新）

- ・第1次及び第2次確認調査の成果と合わせて、調査地の丘陵北側は東西対称的に造成されていること。
- ・古墳の段築（※4）に相当する三段の段が巡ること。
- ・古墳時代の祭祀に関係すると考えられる器台（※5）や二重口縁土器（※6）が複数出土しており、特徴的な様相を持った遺跡であること。

※今後、今回の調査によって得られた各種データや遺物（※7）の整理を行い、それらの詳細な検討を実施していく予定です。



出土土器（一部）



報道機関向け説明会の様子



調査の様子



遺物出土状況

◎第1次確認調査（平成30年度）の成果

- ・人工的に成形された地形であること。
- ・大型土坑（※8）に伴う遺物の出土

◎第2次確認調査（令和元年度）の成果

- ・古墳と仮定した場合、墳端（※9）・くびれ部（※10）・周溝（※11）にあたる遺構（※12）を検出。
- ・古墳時代の遺物の出土



出土遺物（壺）



出土遺物（二重口縁土器 壺）

<遺跡までのアクセス>

JR 赤湯駅から車で約 5 分。徒歩約 25 分です。稲荷森古墳の近くに位置しますが、私有地のため普段は立ち入りできません。(調査期間中も関係者以外立ち入り禁止です。)

用語説明

埋蔵文化財	土地に埋蔵されている文化財のこと。具体的には、貝塚・集落跡・古墳・城跡などの遺構と、土器・石器・木製品・金属製品など遺物を指す。
「遺跡」※1	文化財が埋蔵されている土地のこと。埋蔵文化財包蔵地。
「古墳」	3世紀後半から約400年の間に作られた土を盛り上げた墳丘をもつお墓。
「前方後円墳」※2	丸い古墳(円墳 えんぷん)と四角い古墳(方墳 ほうふん)をつなげたような形状をした古墳。
「踏査」※3	現地に行き、地形や遺物等の確認を行うこと。
「段築」※4	墳丘斜面を階段状に形成したもの。
「器台」※5	祭祀に用いられる供献用の台。
「二重口縁土器」※6	古墳時代の前期に多い、縁(口縁部)が二重の段になった形態の土器。
「遺物」※7	過去の人間が残した土器や石器等の動かすことができるものの総称。
「土坑」※8	人間が掘ったある程度の深さと大きさの掘り込み。墓や貯蔵庫、祭祀に伴うもの等、様々な性格を持つ。
「墳端」※9	古墳の端。
「くびれ部」※10	前方後円墳の前方部と後円部の境部分。
「周溝」※11	古墳を囲む溝。
「遺構」※12	過去の人間が残した建物跡や柱穴等の動かすことができないものの総称。